

芽吹き始めた九州の新しい力



九州大学が実験を行う風レンズ風車

次代の主役に

九州で新しい主役が誕生する兆しが現れた。大きな広がりを見せてる太陽光や風力、水力などのエネルギー関連産業がそうだ。この夏、九州は2010年比10%以上の節電が求められており、電力供給に大きな不安を抱える。それだけに、この動きは既存産業の安定化にもつながる。これまで自動車と半導体が九州経済を引っ張ってきた。半導体が振るわない今、自動車とダブル主役になれそうなエネルギー関連産業に注目が集まる。



肥後銀行は電動バイクで営業に走る



デンケンの太陽電池モジュールテスト



自動車産業は好調(「レクサス ES」ラインオフ式典での豊田章男トヨタ自動車社長)



小水力発電の開発が進む(大分県)

2012夏
九州経済最前線

九州では自動車と半導体という基幹産業が明暗のコントラストを強めた。九州の四輪自動車生産台数は、2011年度に約13万台と過去最高を更新。今年度は150万台に迫る勢いだ。一方の半導体(集積回路)は生産量、金額ともに低迷。なかでモルネサスエレクトロニクスが九州を含む拠点閉鎖の検討を発表。不安の色は濃くなつた。

こうした中、動きが活発化してきたのが新エネルギーの導入。自治体は大規模太陽光発電所(メガソーラー)の事業誘致を積極化し、日照時間が長い九州では参入が盛んだ。鹿児島県いちき串木野市では、企業や自治体など10者が合同会社「さつま自然エネルギー」を設立。12年度内に事業所や一般家庭に合計3400kW規模の発電システムを設置する。またJR九州が宮崎県都城市で最大出力2000kWの発電を行なうなど農業種参入も活発だ。メガソーラーは大きな雇用は生まれないが、電源安定化や関連産業振興が期待できる。デンケン(大分県由布市)は、低価格で小型の太陽電池モジュールテストを発売。7月に始まった再生可能エネルギー全量買い取り制度に対応して需要を見込む。

風力や水力も大きな潜在性を秘め。九州大学は福岡市の博多湾で、風を効率的にとらえる独自の「風レンズ風車」の実証試験を実施している。小規模水力発電も中

小企業が商機をとらえて各地で参入している。また温度が一定な地中熱を利用した空調システムや、海洋エネルギーによる発電も存在感を増す。

電気自動車(EV)の活用による産業振興も深化してきた。熊本県は県内の関連産業仲長に向けて、地域企業でのインフラ整備を進めている。長崎県でも五島列島で高度道路交通システムと組み合われた実証実験が進んでいる。

九州には好調な自動車のほか造船や鉄鋼、機械、化学、環境など幅広い産業が存在する。いずれも堅調で、それぞれの地域を支えて、地域企業でのインフラ整備を進めていく。

九州には好調な自動車のほか造船や鉄鋼、機械、化学、環境など幅広い産業が存在する。いずれも堅調で、それぞれの地域を支えて、地域企業でのインフラ整備を進めて